

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|-------------|
| 建物名称 | (仮称)関西ビジネスセンター | 階数 | 地上6F |
| 建設地 | 京都府 相楽郡精華町、木津川市 | 構造 | S造 |
| 用途地域 | 準工業地域、法22条区域 | 平均居住人員 | 未定 人 |
| 地域区分 | 5地域 | 年間使用時間 | 未定 時間/年 |
| 建物用途 | 事務所・工場 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2018年4月 予定 | 評価の実施日 | 2015年11月6日 |
| 敷地面積 | 49,999 m ² | 作成者 | 平野 |
| 建築面積 | 14,445 m ² | 確認日 | 2015年11月30日 |
| 延床面積 | 47,977 m ² | 確認者 | 菅波 |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|---|--|---|
| 総合 安全性・信頼性の構築と共に、周辺環境に対しては、建物外観における分節化や後退していくスカイラインの形成により圧迫感の軽減を図り、また外構廻りにおいては緑の景観軸の連続性を補完する計画としている。 環境負荷の低減にも配慮し、高効率熱源機器やフリークーリングシステム、超高効率型変圧器等の採用を行っている。 | | その他 - |
| Q1 室内環境 内装材F☆☆☆☆の全面的採用/事務エリア:換気量30CMH/人を確保/ビル内全面禁煙化、喫煙室の確保および空気清浄機の設置 | Q2 サービス性能 執務スペース天井高さ2.8m~3.0mを確保/非常用発電機/設備の二重化 | Q3 室外環境(敷地内) 建物形状・スカイラインの配慮/植栽計画によるまちなみへの調和/既存樹木の保存 |
| LR1 エネルギー 高効率熱源機器/高温度冷水システム/フリークーリングシステム/外気冷房/冷温水大温度差送水/冷温水ポンプ・空調機・給排気ファン・冷却塔のインバーター制御/超高効率型変圧器/LED照明器具/人感センサー・昼光センサーによる照明制御 | LR2 資源・マテリアル 節水型器具の採用/中水利用/不活性ガス消火システムの導入 | LR3 敷地外環境 CO ₂ 排出量を参照値の約75%に制御/適切な駐車台数・駐輪台数・荷捌駐車場の確保 |

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される